

====今月号からしばらくの間は4ページ建てでお届けいたします。====

## トピックス 江戸川区教室交流会が開催されました

7月31日（土）に北葛西コミュニティ会館において第1回の江戸川区教室交流会が開催されました。当日は区内15登録教室のうち12教室から約120名が参加して、全員での二十四式太極拳、3グループに分かれての不老拳、また全員での百華拳などを楽しみました。

また各先生からそれぞれの教室の歴史や現況の報告



が行われましたが、区内の教室の古いものは約30年の歴史があること、そして多くの教室が故豊島なつ江先生が創設され、指導されていた教室であることが紹介されました。（先生は江東区、荒川区などでも多くの教室で指導をされていた卓越した指導者であられました。）司会者からあす8月1日が丸7年目の先生のご命

日であることが紹介され、先生の功績を偲び、その御霊に参加者一同で黙祷をささげました。

同じ区内の教室の先生と会員の皆様によるはじめての交流会でしたが、来年の再会を約して成功裏に閉会となりました。【写真撮影；蒔澤徹師範】

## 健康妄語録 ブリスベンでマグロ解体ショーと利き酒会を楽しむ

個人的な話で恐縮ですが、ちょっと面白い体験をしてきましたので、ご報告いたします。

オーストラリアのブリスベン市で和食レストランを営んでいる息子に招待されて7月中旬に行われた店の開店5周年記念イベントに参加してきました。

一晩はシドニー在の日本の魚問屋から日本人の若い衆二人が出張して来ての、ブリスベンでは初めてという“マグロの解体ショー”でした。ユーモアたっぷりに流暢な英語で解説しながらの鮮やかな包丁捌きに、60人ほどのお客さんも熱心に見入ってい



ました。もちろん捌かれたマグロは大トロ、中トロ、赤味、などにさく取りされ、すぐに刺身やすしに変身して、お客さんのテーブルに供されるという仕組みでした。

その前夜はこれまたなんと、“利き酒の会”でした。びっくりしたのは、講師は日本から呼んだ碧眼の英国人杜氏フィリップ・ハーパー氏（写真）だったことです。ここでも60人ほどのお客を前に日本酒の造り方、味の特徴や種類、飲み方などを丁寧に説明しながら、順番に5種類ほどの日本酒の利き酒をさせるというまあ恐らくこれもめったにはないイベントでした。当人はまた素晴らしく上手な日本語を話すので、会が終わってから聞きましたところ、1988年にハーバート大学卒業後、交換留学生制度で来日し滞在しているうちに日本酒の奥の深さに目覚めて、酒蔵に働くようになり、ついには外国人としてはじめて杜氏試験に合格したという経歴の持ち主であり、現在は京都府丹後市の木下酒造の製造部長・専任杜氏として働く一方、シーズンオフには世界中を飛び回って日本酒の普及活動をしているという“すごい変なガイジン！”であることが分かりました。



このように、南半球のオーストラリアの地で、思いがけず、日本の和食文化の国際化の現場に立ち会うことが出来たので、「健康妄語録」にあえて取り上げさせていただきました。

## 旅をうたい拳を詠む ブリスベンにて詠む

赤道はすでに越えしや夜行便煌めく星の海を飛び行く

（行きは9時間の夜行便です）

首断たれ腹裂き割られし大マグロ 妖しき色の美肉に化身す

日本酒の味の秘密を碧眼の杜氏が明かす利き酒の会

蝙蝠が食べ残したるオレンジを挽ぎて絞れるジュースぞ美味し

（庭のオレンジを挽いで絞っただけの本当のフレッシュジュースでした）

外つ国の鳥の鳴き交う園生<sup>そのお</sup>にて冬7月の朝の拳舞う

（ブリスベンの冬の朝の気温は10度ぐらいです）

## 左顧右眄～さこ・うべん～（41）【第5話 「道教」について】

### 3～3）神様の系譜

道教は多神教です。祀る神様は200とも300とも言われます。時代によって、また流派によって違いがあり、かつ序列があり（時代が変わるにつれて降格や昇格があります）、また、それぞれに役割があります。ごくごくかいつまんで記すと以下のようなようになります。

**元始天王** 天地を創造したとされる「盤古」\*3を象徴する絶対神。

**玉皇上帝** 最上位の神。すべての神様を天上で統括する存在。

**三清道祖** 「道（タオ）」の象徴神。元始天尊、靈宝天尊、道德天尊の3神からなるが、道德天尊老子が神格化してなった太上老君である。

以上が仏教寺院でいえば、いわばご本尊にあたるものです。

これに次いで、三官大帝、北辰五至尊\* 4、五斗星君、九宮貴神、四靈星君、などの天上の神々があります。

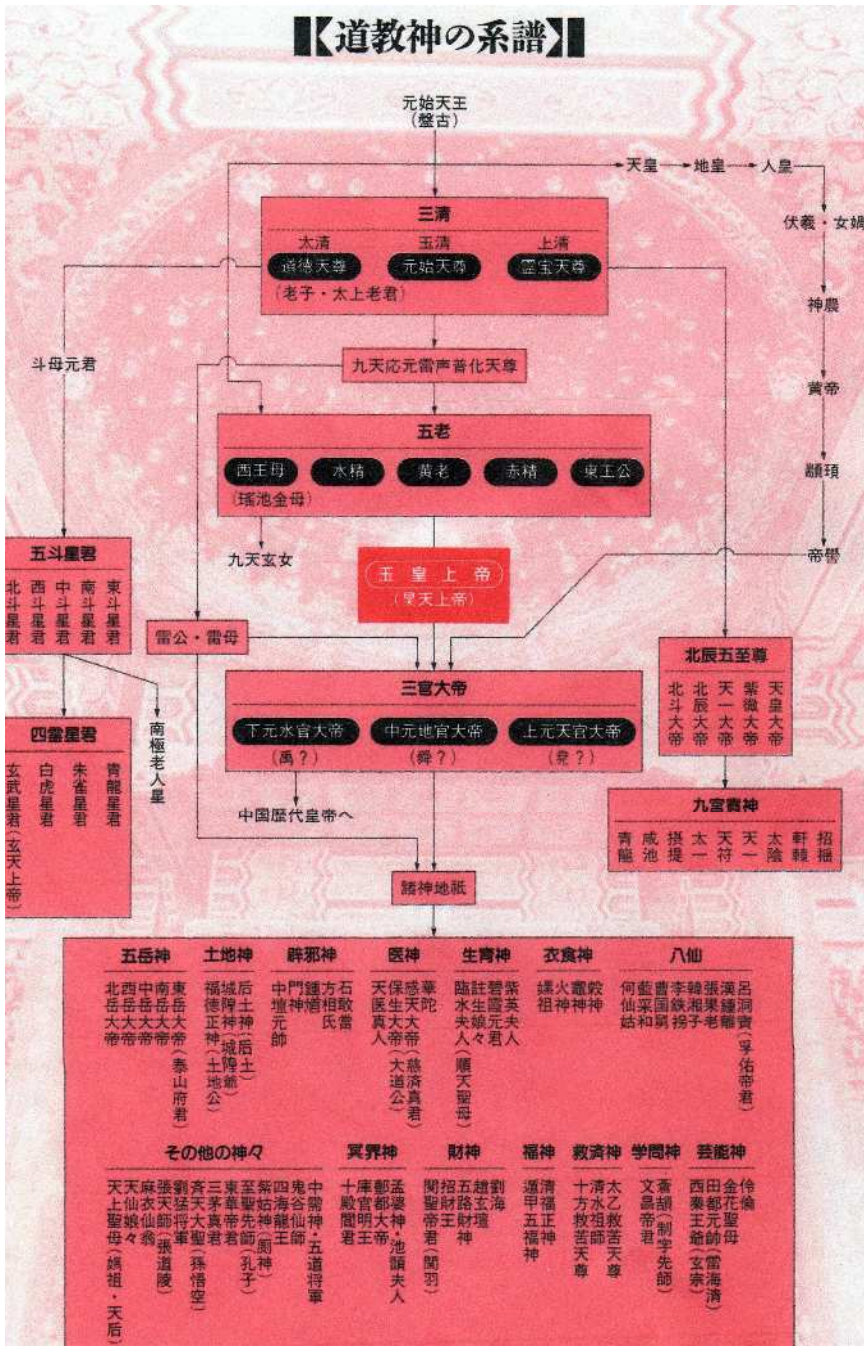
さらにこの下に、いわゆる民間信仰で人気の高い諸神があまた存在します。おおむね財神、衣食神、医神、芸能神、学問神、土地神、五岳神、八仙、などに分類されています。過去の偉人、

英雄の中にも死後人気が出てこれらの神に祭りあげられた人も少なくありません。至聖先帝(孔子)、張天師(張道陵)、関聖帝君(関羽)、西秦王爺(玄宗皇帝)、齊天大聖(孫悟空)、天上聖母(媽祖・天后)\* 5などが有名、かつ人気のある神様だそうです。

ちなみに、関聖帝君(関羽)は財神に、西秦王爺(玄宗皇帝)は芸能神に属しているそうです。

このほか釈迦もキリストも、マホメッドも道教の神にさせられているということです。

信者の願いは要は「福祿寿」(幸福、財産、長寿)ですから、これらを叶えてくれそうな神をそれぞれ選んで拝むわけです。関帝廟や媽祖廟のようにひとつの神だけを祭る廟もありますし、



主神の脇にいくつかの神様を並べている宮や廟もあるということです。関帝は非常に人気が高く仏教寺院でも守護神(いわば仁王様)として祀られているそうです。上の表は道教神の系統図の一例です。

(右図; 太極を持つ盤古)



注;

\* 3 盤古

中国の神話に出てくる宇宙創成にかかわる巨人。陰陽二氣に別れる前の宇宙

の混沌の象徴。「太極」、「道（タオ）」に通じる。その後裔として人類誕生を担ったのが伏羲と女媧の兄弟にして夫婦という二人。また、その子供が「神農」で、中国医学の始祖とされている。（日本の香具師もその始祖を神農としている。）その末裔が古代中国の伝説的な皇帝である黄帝。これらもすべて神として祀られている。

**\* 4 北辰五至尊** 北極星信仰のこと。北辰信仰ともいう。あるいは仏教の菩薩信仰と習合して妙見菩薩の名前でも知られる。日本でも一般化した。柳島の妙見様「法性寺」などが有名。北辰一刀流の名前の由来でもある。日本では北斗七星を信仰する北斗信仰と混同されている場合もある。

**\* 5 媽祖** 10世紀後半に江蘇省にいた巫女が死後神様に祀られたもの。航海の守護神として、中国本土のみならず、台湾、香港はじめ海外の華僑にも絶大な人気がある。女神のため仏教の観音菩薩信仰ともしばしば習合している。

## 4) 道德経（老子）とは？

### 4～1) 構成と特徴

道教を知るには、**道德経**をまずは知らなければなりません。道德経はわずか五千字あまりの小冊子で、前編 37章は、“道可道…”で始まるので「道経」、後編の 44章は“上徳不徳…”で始まるので「徳経」、したがって合わせて「道德経」と呼ばれているものです。「道德」を意味しているものではありません。

「道德経」については、必ずしも老子一人の、あるいは老子の、書いたものではなく、時代を重ねて手が加えられ、編纂されてきたものとの見解が多いようです。内容は、①「道（ダオ・タオ）」の原理、および②そこから展開した正しい生き方、③世相批判や政治批判、④儒教批判、に大別できますが、重複や錯綜する箇所も大変多いので難解です。全編を組み替えて解説している解説書もあるほどです。

### 4～2) 「道（ダオ・タオ）」とは何か？

「道（ダオ・タオ）」については、第1章の“道の道とすべきは常の道に非ず、名の名とすべきは常の名に非ず。名無きは天地の始め、名あるは万有の母。”ならびに第 42章の“道は一を生じ、一は二を生じ、二は三を生じ、三は万物を生じる。万物は陰を負いて陽を抱き、沖気（調和した力の意味）以って和を為す。”などに、その根本的な概念が提示されています。

一方、より古い西周時代の**易経**には“易に太極あり、これ両儀を生じ、両儀は四象を生じ、四象は八卦を生ず”とありますので、「道」は、この「太極」とほぼ等しい概念と言うことが出来ます。また、“万物生成の根源的な力”ともされている「**気**」の概念とも同じです。要はそれぞれ言葉と表現の違いはあるものの、同じ原理を説明しているものと考えれば理解が容易となります。

つまり、宇宙というか天地を支配する法則は決まっています、さまざまに変化はするものの、その法則どおり粛々と進行しているものなので、人間も人間社会もその法則から逃れることは出来ない、したがって、その法則をよく理解してそれに従うのが最上の道である、というのが老子の基本的な主張です。

「無為自然」も「柔弱は剛強に勝つ」も「上善は水の如し」も「天の道は争わずにして善く勝つ」「足るを知れば辱められず、止まるを知れば殆うからず」も、すべてはそこから導きだされた警句、名言だということです。ただし、（儒教を意識してか）かなり反語的な表現が多いのも特徴のひとつです。

儒教が礼、仁、義、徳、忠など、とかく人為的な、国家秩序を前提にした礼節を強調することに対して、老子はかなり明快にその主張を批判、揶揄しているとも言えます。